

# 逍遙館長のところ

## 「捕鯨も時代が違えば、のこころ」

4月19日 逍遙<sup>しんぎょう</sup>

今日4月19日は、あの米国のペリーが琉球王国の那覇港に入港した日、といきなりそれでは、皆さん「はあっ？」と思われるだけでしょ。もう少し丁寧に申し上げると、ペリーが黒船で浦賀に来航し日本に開国を迫った際（1853年6月3日）、実はそれに先立つ今日4月19日に、当時、実質的には薩摩藩の支配下にあった琉球王国にペリーが立ち寄り、自ら首里城訪問を強行したのです。ペリーの浦賀来航というと、今の感覚では太平洋をただ西進したように思いがちですが、当時は、米東海岸→アフリカ南端→インド洋→マラッカ海峡→中国→琉球→日本へ、という航路を辿ったのです。

産業革命により、欧米各国は、工場等の稼働用の大量の潤滑油を求めて盛んに捕鯨を行っていて、大量の薪と水、食料の補給拠点を太平洋沿岸に確保する必要がありました。だからこそ日本の南端に位置する薩摩藩は、幕府や他藩等に比べいち早く海外の情報を入手できたのです。このことが、その後の薩摩藩が果たした歴史的役割にも大きく影響することとなったのです。パント世界文化遺産が意外なところで鹿児島と縁がある、というお話でした。

◎ 次回の予定「昨日の友は今日の敵、のこころ」

